

環境貢献商品への取り組み Since 1958

1950年代後半、南氷洋で盛んだった捕鯨は、荒海で母船とキャッチャーボートが接舷する際、船舶同士の衝突を避けるため捕獲した鯨を緩衝材に使いました。鯨に代わる緩衝材として、横浜ゴムが1958年に開発したのが空気式防舷材です。今日、横浜ゴムの空気式防舷材は世界シェア80%に達し、その実績から2002年末には横浜ゴム製品がISO（国際標準化機構）による空気式防舷材規格の基準に採用されました。横浜ゴムの環境貢献商品開発の歴史は、半世紀前に遡ります。



かつて洋上の接舷に利用されていた鯨（写真下方）



海上で使用中の現在の空気式防舷材